
調査年報 30

平成 29 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

調査年報 30

平成 29 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



幸運 5 遺跡 石製品出土状況



幸運 5 遺跡 調査状況



幸運遺跡 漆製品出土状況



温根沼 2 遺跡 調査状況

目 次

口絵

目次

北海道史略年表

平成29年度の調査

1	調査の概要	1
2	調査遺跡	
	厚真町厚幌2遺跡	4
	厚真町豊沢10遺跡	8
	厚真町豊丘2遺跡	10
	白老町ポロト3遺跡	12
	伊達市西関内3遺跡	14
	木古内町幸速遺跡	16
	木古内町幸速5遺跡	20
	木古内町札苺5遺跡	24
	木古内町札苺7遺跡	26
	斜里町カモイベツ遺跡	28
	根室市温根沼2遺跡	32
	下川町上名寄8遺跡	38
3	現地研修会の報告	40
4	協力活動及び研修	44
5	平成29年度刊行報告書	46
6	組織・機構	47
7	職員	48

北海道史略年表

本州の時代区分		年代 (西暦)	北海道の時代区分	平成29年度調査遺跡の主な時期
明治～平成		A.D. 1900	(近代・現代)	温根沼2 温根沼2 (カモイベツ) 温根沼2 (カモイベツ) 豊沢10 厚幌2 西関内3 幸連5 札苺7 温根沼2 西関内3 温根沼2 ポロト3 幸連 幸連5 厚幌2 幸連 幸連5 札苺5 温根沼2 豊丘2 温根沼2 上名寄8 上名寄8
江戸時代			近世	
室町時代			アイヌ文化期	
鎌倉時代			中世	
平安時代		A.D. 1200	擦文文化期	
奈良時代		A.D. 800	オホーツク文化期	
古墳時代		A.D. 300	統縄文時代	
弥生時代				
縄文時代	晩期	B.C. 300	縄文時代	
	後期	B.C. 1000		
		B.C. 2000		
	中期	B.C. 3000		
	前期	B.C. 4000		
	早期	B.C. 7000		
	草創期	B.C. 13000		
旧石器時代		B.C. 20000 B.C. 30000	旧石器時代	

平成29年度の調査

1 調査の概要

発掘調査は、道内7市町に所在する12遺跡で実施した。このうち5遺跡は以前からの継続調査である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局が実施する道路工事や整備（函館開発建設部・釧路開発建設部・網走開発建設部）に伴う調査が4市町7遺跡、公園整備が1町1遺跡（札幌開発建設部）、土地改良事業・導水路（室蘭開発建設部）が1町3遺跡、河川改修1町1遺跡（旭川開発建設部）。北海道胆振総合振興局建設管理部が行う防災安全交付事業に伴う調査が1市1遺跡である。

木古内町幸連5遺跡は今年度2687㎡の計画調査範囲であったが、下述するように高密度の重複関係が認められる多数の遺構が検出され、さらに多量の遺物が出土したため、1,455㎡を着手したが終了することができず来年度も継続して調査する。斜里町カモイベツ遺跡は次年度発掘調査に向けて表面踏査・測量調査を実施している。

以下、発掘調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すようにし、時期の重複する遺構は始まりの時期あるいは主体とみられる時期を目安に記述する。なお、遺構などは時期や性格の認定作業にまで及んでいないものがある。

旧石器時代 木古内町札苅5遺跡では石刃が、下川町上名寄8遺跡では黒曜石・珪化岩素材の石刃・石刃石核・製品石器などが出土している。

縄文時代 早期 前出上名寄8遺跡は早期の石器類、厚真町豊丘2遺跡では中茶路式・東釧路Ⅳ式土器や断面三角形のすり石が出土している。根室市温根沼2遺跡では東釧路Ⅱ式期の住居跡・土坑・焼土が検出され、蛇紋岩製石斧も出土している。

縄文時代 前期 厚真町厚幌2遺跡では、植苗・大麻Ⅴ式期の「捨て場」が確認され、これは住居跡・土坑を廃絶後に大型礫石器・シカ歯・土器片を廃棄している。木古内町幸連遺跡では、円筒下層d式期の住居跡・盛土遺構のほか、多数の密集した大型フラスコ状土坑が検出された。木古内町幸連5遺跡では、円筒下層c・d式期の斜面盛土遺構・多数の密集した大型フラスコ状土坑・削平された凹地が検出されている。この2遺跡は段丘上を削平し、その土を使って盛土遺構を形成したと考えられ、地形の改変はここから始まっている。

札苅5遺跡では円筒下層c・d式～サイベ沢Ⅶ式（前期後葉～中期前半）の住居跡・焼土・剥片集中が検出され、住居跡は出入り口・ベンチ状床面が伴っている。

縄文時代 中期 前出幸連遺跡では大安在B式の住居跡が検出されている。前出幸連5遺跡では、円筒上層b式～見晴町式期の斜面盛土遺構、多数の密集した中型フラスコ状土坑、削平された凹地が検出され、斜面盛土遺構・削平された凹地は前期から引き続く。また、榎木林式～ノダップⅡ式期には多数の密集した住居跡が検出され、炭化した上屋根が残る火災住居や廃絶住居の凹みには人為堆積物が認められている。なお、口絵1の三角形石製や石棒もこの頃の遺物である。白老町ポロト3遺跡は海岸砂丘の内海側（現ポロト湖）に形成された遺跡でサイベ沢Ⅵ式期頃の土器や礫の集中が検出されている。温根沼2遺跡では温根沼式の住居跡が検出されている。

伊達市西関内3遺跡は地表下3～4mからノダップⅡ式～入江式頃（中期後半～後期前葉）の土坑・落とし穴が検出され、落とし穴が密集しているため埋め戻されているものもある。温根沼2遺跡では、北筒Ⅰ～Ⅴ式（中期後葉～後期前葉）の住居跡・土坑・集石が検出されている。

縄文時代 後期 前出幸連5 遺跡では煉瓦台式～湧元1 式期（中期末～後期初頭）の住居跡、削平された凹地、海に向かう2 条の直線的盛土遺構が検出されている。木古内町札苺7 遺跡では堂林式期の住居跡・土坑が検出されている。

縄文時代 晩期 厚真町豊沢10 遺跡では上ノ国式の土器・剥片石器・石斧・たたき石などの遺物が、陸獣の焼骨を伴う焼土群を検出している。

続縄文時代 温根沼2 遺跡では、下田ノ沢Ⅱ 式期の住居跡・土坑・土坑墓・焼土が検出され、炭化した上屋材が残る火災住居跡や炭化材を伴う土坑も見られる。

擦文文化期・オホーツク文化期 温根沼2 遺跡では、擦文後半期の竈付住居跡、トビニタイ式期の竈なし住居が検出されている。

アイヌ文化期 厚幌2 遺跡では住居跡・焼土・礫集中が検出されている。

2 整理作業・報告書作成の概要

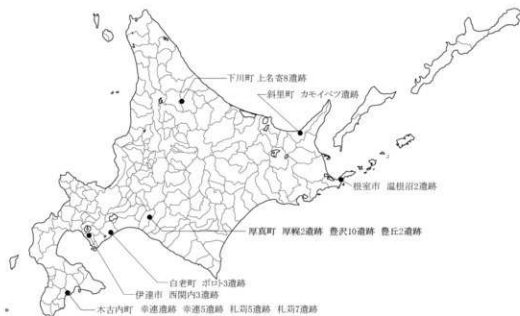
整理作業のみを行った遺跡、発掘調査と整理作業を行った遺跡があり、そのうち、報告書を刊行する遺跡、継続調査及び継続整理を行った遺跡がある。以下、事業ごとに記す。

国土交通省北海道開発局事業

- ・道央圏連絡道路関係では、千歳市トブシナイ2 遺跡・イカベツ2 遺跡の報告書を刊行する。
- ・根志越遊水池関係では千歳市根志越5 遺跡の報告書を刊行する。
- ・函館－江差道関係では、木古内町幸連3 遺跡、釜谷10 遺跡、泉沢6 遺跡の報告書を刊行する。幸連4 遺跡は整理中であり、札苺5 遺跡・札苺7 遺跡は発掘調査と整理作業を行い、幸連遺跡・幸連5 遺跡は継続調査及び整理作業を行う。
- ・厚幌導水路関係では、豊沢10 遺跡・豊丘2 遺跡は発掘調査と報告書刊行を行い、豊沢5 遺跡・富里1 遺跡は報告書を刊行する。厚幌2 遺跡・オコッコ1 遺跡が整理作業中である。
- ・根室地区の道路関係事業では、温根沼3 遺跡の報告書を刊行する。温根沼2 遺跡と別当賀一番沢川遺跡が整理中作業である。
- ・公園整備関係では、白老町ポロト3 遺跡が整理作業中である。
- ・名寄川河道改修関係では、下川町上名寄8 遺跡が発掘調査と報告書刊行を行う。

北海道事業

- ・厚幌ダム事業では、上幌内4 遺跡・上幌内5 遺跡とオニキシベ3 遺跡の報告書を刊行する。
- ・防災安全交付事業では、伊達市西関内3 遺跡が整理中である。



平成29年度 発掘調査遺跡および掲載遺跡の位置図

平成29年度 事業別発掘調査・整理作業遺跡一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	備 考	
国土交通省 北海道	札幌開発建設部	道央圏連絡道路景観道路工事	トフシナイ 2	千歳市	整理作業	平成26年度から継続
			イカバツ 2	千歳市	整理作業	平成26年度から継続
	函館開発建設部	根志結地区治水地工事用地内 国立民営共生公園整備事業	根志越 5	千歳市	整理作業	平成26年度から継続
			ボロト 3	白老町	440	新規
			幸達 3	木古内町	整理作業	平成27年度から継続
			豪谷 10	木古内町	整理作業	平成28年度から継続
			景沢 6	木古内町	整理作業	平成28年度から継続
			幸達 4	木古内町	整理作業	平成28年度から継続
			札崎 5	木古内町	770	平成23年度から継続
			札崎 7	木古内町	893	平成25年度から継続
函館開発建設部	高層格付線道筋函館江差自動車道建設工事	幸達 5	木古内町	0	平成28年度から継続, 1,455㎡差し	
		幸達	木古内町	2,896	新規	
道 関 発 局	旭川開発建設部	天塩川改修工事のうち名寄川河道掘削工事	上名宮 8	下川町	700	平成27年度から継続
			真里 1	厚真町	整理作業	平成28年度から継続
道 関 発 局	室蘭開発建設部	赤松東部（二期）地区厚幌導水路工事	豊沢 3	厚真町	整理作業	平成28年度から継続
			豊沢 10	厚真町	613	新規
			豊丘 2	厚真町	1,634	新規
			オッコロ 1	厚真町	整理作業	平成27年度から継続
			厚幌 2	厚真町	2,438	平成28年度から継続
			厚幌 2	厚真町	整理作業	平成28年度から継続
道 関 発 局	網走開発建設部	一般国道334号斜里町緑道中央帯設置工事	カマイバツ	斜里町	0	新規, 表面調査・測量調査実施
			上幌内 4	厚真町	整理作業	平成26年度から継続
北海道	胆振総合振興局	厚幌ダム建設事業	上幌内 5	厚真町	整理作業	平成25年度から継続
			オニキシバ 3	厚真町	整理作業	平成26年度から継続
			西間内 3	伊達市	618	新規
			合 計			14,042㎡

2 調査遺跡

厚真町 厚幌2遺跡 (J-13-88)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字幌内485-1、487-1

調査面積：2,038㎡

調査期間：平成29年5月11日～8月30日

調査員：村田 大、新家水奈、中山昭大

調査の概要

遺跡は、厚真市街地から北東へ約10km、キウキチ沢川の東側台地上に位置し、標高は60m前後である。基本土層は豊沢10遺跡とほぼ同様であるが、昨年度同様、調査区東側に縄文時代前期以前の土石流によると思われる樽前dテフラ（Ta-d：約7,000年前）の再堆積層がみられる。今年度は平成27・28年度調査区の北側に平行する範囲の調査を行った。

遺構と遺物

3か年で検出した遺構数は表のとおりである。今年度のⅢ層の調査ではアイヌ文化期の平地住居跡を1軒検出した。鉄鍋や刀子などの鉄製品のほか、銅製と思われる飾り金具や集石を伴う。

V層の調査では、過年度同様、縄文時代前期後半の捨て場と思われる遺物の集中域が2か所みつかった。さらに、当該期の堅穴住居跡が捨て場の下から新たに検出された。2か所の捨て場はいずれも厚真川に向かって緩やかに傾斜する地形上にあるが、出土する遺物の種類が若干異なる。調査区の西側北端にある捨て場は、堅穴住居や土坑を廃棄した後、主に大型礫石器が捨てられているのが特徴である。調査区中央の捨て場は、堅穴住居や土坑を廃棄した後、シカの歯片や土器片・小型の礫片等をまとめて持ち込んでいる。石槍やつまみ付きナイフ、石斧、たたき石、北海道式石冠、砂岩の焼礫、シカの四肢焼骨片は共通して出土しており、住居跡等の遺構や両捨て場に時期差はほとんどないと思われる。

縄文時代前期以外の時期では、縄文時代後期前葉の余市式期の土器片や堅穴住居跡がみついている。また、Tピットが新たに12基見つかり、中期～後期にかけても人々が活動していたことがうかがえる。

今年度の調査で出土した遺物は約15万点で、このうち土器は7万点である。3か年の調査で出土した遺物の総点数は約26万点である。

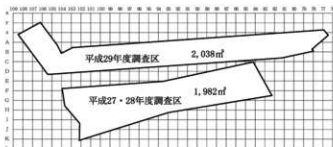
検出遺構数（3か年度分）

Ⅲ層の遺構 (縄文時代晩期～ アイヌ文化期)	住居跡 (ⅢH)	柱穴状 小土坑 (ⅢK P)	焼土 (ⅢF)	礫集中 (ⅢSB)	炭化物集中 (ⅢCB)	獣骨集中 (ⅢBB)
	2 (1)	1	7 (6)	3 (1)	1	2

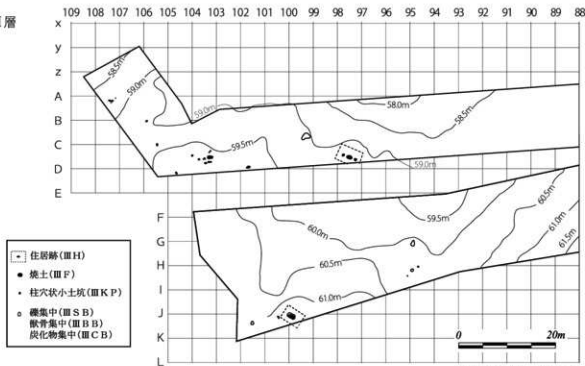
※ () 内は
今年度検出数

V層の遺構 (縄文時代早期～ 縄文時代晩期)	堅穴住居跡 (VH)	土坑 (VP)	焼土 (VF)	土器集中 (VPB)	剥片集中 (VFC)	礫集中 (VSB)	獣骨集中 (VBB)	Tピット (TP)
	7 (7)	33 (17)	14 (4)	1	3	1 (1)	1 (1)	20 (12)

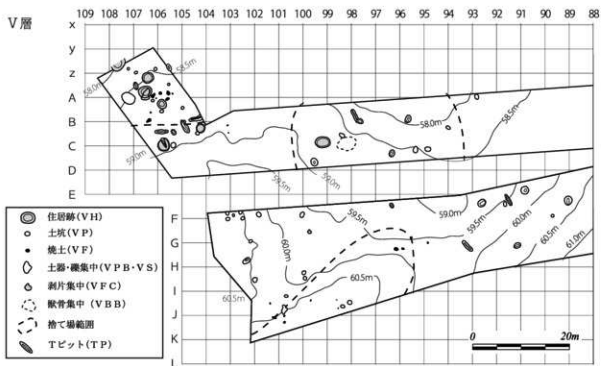
年度別調査範囲



Ⅲ層



Ⅴ層



検出遺構位置図



捨て場作業風景



鹿の歯の集中 (V BB-1)



大型礫出土状況 (V SB-1)



竪穴住居跡 (VH-1)

あつま ことろ
厚真町 豊沢10遺跡 (J-13-139)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字豊沢473-1

調査面積：613㎡

調査期間：平成29年5月22日～6月7日

調査員：村田 大、新家水奈

調査の概要

遺跡は厚真町の市街地から南へ約5km、厚真川支流の当麻内川へ注ぐ小河川、平井の沢の左岸、標高約16～18mの緩斜面に立地している。基本土層は、過去の厚真町内の調査に準じている。Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：樽前bテフラ（Ta-b：1667年）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前cテフラ（Ta-c：約2,500年前）、Ⅴ層：黒褐色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前dテフラの再堆積層（ここでは欠落）、Ⅷ層：樽前dテフラ（Ta-d：約7,000年前）で、Ⅴ層が遺物包含層である。

遺構と遺物

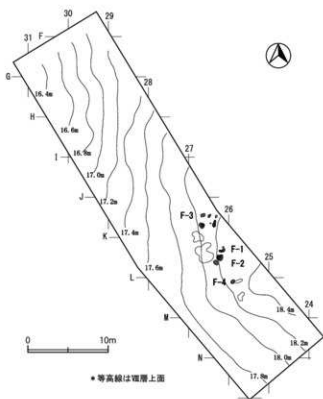
検出した遺構は、焼土4か所である。いずれも標高18m付近の比較的平坦な面で見つかった。シカの焼骨片、灰、炭化物やフレイクチップの集中域を伴うものもある。周辺から縄文時代晩期初頭の土器が出土していることから、この時期のものと考えられる。

出土した遺物は、土器等が1,088点、石器等が3,481点の計4,569点である。土器は大半が縄文時代晩期初頭のもので、焼土の周辺からまとまって出土している。石器は、剥片石器類がほとんどで、特に石鏃と石錐が多い。礫石器類は石斧片やたたき石など数点が出土しているのみである。



(国土地理院発行20万分の1地勢図「夕張山」「釧路」「札幌」「苫小牧」を縮小・加筆)

厚幌導水路関連遺跡位置図



遺構位置図



調査状況



焼土 F-1・2



遺物出土状況

厚真町 豊丘2遺跡 (J-13-111)

事業名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

所在地：勇払郡厚真町字豊丘325-3

調査面積：1.034㎡

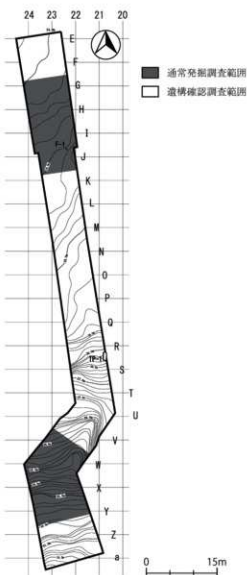
調査期間：平成29年7月26日～8月7日

調査員：村田 大、新家水奈

調査の概要

遺跡は厚真町の市街地から南へ約8km、厚真川の支流、野安部川の左岸、標高約24～34mの緩斜面上に位置している。調査前の現況は、比較的平坦な北側は畑地で南側が山林であった。基本土層は、豊沢10遺跡と同様であるが、Ⅳ層の樽前cテフラ（Ta-c：約2,500年前）の堆積が薄く、場所によってはⅢ層とⅤ層の境が不明瞭であった。Ⅴ層が遺物包含層である。

発掘区は5か所に分かれており、細長い調査範囲内の2か所に通常の発掘調査区があり、隣接して遺構確認調査区がある。

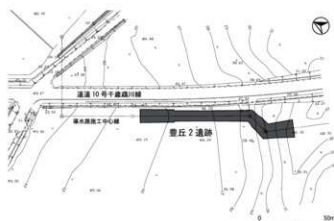


遺構位置図

遺構と遺物

検出した遺構は、Tビット1基と焼土1か所である。Tビットは中央遺構確認調査区の南側山林へ向かって、斜面がやや急になる地形の転換点付近に位置している。焼土は北側通常発掘調査区のⅤ層下位で検出した。木根の攪乱を受けており焼成土のみの検出であった。

出土した遺物は、土器が465点、石器類が216点の合計681点である。土器は縄文時代早期後半の中茶路式が大半で、わずかに東銅路Ⅳ式が出土している。石器は、剥片石器では石鏃が多く、礫石器では断面形が三角形を呈するすり石が出土している。



遺跡周辺の地形



遺構確認調査状況



TP-1 断面



F-1 調査状況



遺物出土状況

白老町 ポロト3遺跡 (J-10-45)

事業名：国立民族共生公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：白老郡白老町若草町2丁目

調査面積：440㎡

調査期間：平成29年7月4日～平成29年8月10日

調査員：菊池慈人、山中文雄、三浦正人

調査の概要

遺跡はJR白老駅から北東へ約500m、有珠b降下軽石等で覆われた小規模な海岸砂丘上に立地する。砂丘は現在の海岸線から約800m内陸に、海岸線と平行に細長く伸びている。現況は緑地で、地表面の標高は約6mを測る。

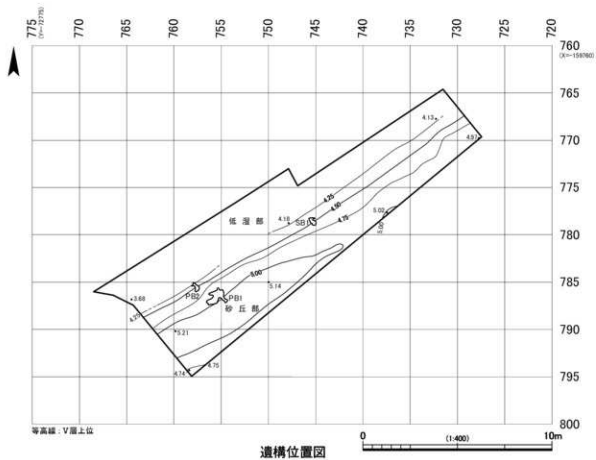
基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：有珠bテフラ (Us-b:1663年)、Ⅲ層：灰黄褐色砂壤土、Ⅳ層上位：黒色壤土、Ⅳ層下位：黒褐色砂土、Ⅴ層：暗褐色～褐灰色砂土で、遺物は主にⅣ層下位から出土した。なお、低湿部側は泥炭土が厚く堆積し、発掘区壁面からの湧水が著しかったので、トレンチを数か所に入れて包含層の広がりを確認して調査を行った。

遺構と遺物

遺構はⅣ層下位で土器集中2か所 (PB1・2)、礫集中1か所 (SB1) を検出した。PB1・2は円筒土器上層式の破片のまとまりで、SB1は長径7cm前後の礫約80点の密集である。遺物は、遺構と包含層出土分を合わせて、土器約600点、石器等約200点を数える。土器の大半は円筒土器上層式をはじめとする縄文時代中期のもので、石器等は、石鏃、石槍、磨製石斧未成品、すり石、剥片、礫がある。



遺跡位置図



伊達市 西関内3遺跡 (J-04-90)

事業名：滝之町伊達線防災・安全交付金工事用地埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道胆振総合振興局

所在地：伊達市字西関内369-8

調査面積：618㎡

調査期間：平成29年9月1日～10月6日

調査員：昔川洋一、藤井 浩、鈴木宏行

遺跡の概要

西関内3遺跡はJR伊達線別駅から北北東に約7.8kmの地点にある。標高135～137mの河岸段丘上に位置する。現況は畑地で、北側には大沢川が流れており、調査区の地形はその川に向かって緩やかに傾斜している。包含層（IV層）は畑地造成時の盛土と有珠bテフラ（Us-b；1663年）で厚く覆われていることから、調査は発掘区の周囲を矢板で囲い、予め崩落防止対策を行ってから実施した。調査の結果、遺構・遺物は地表面から約3～4m下から見つかっている。火山灰はUs-bのほかにも駒ヶ岳dテフラ（Ko-d；1664年）もIV層上位で検出した。

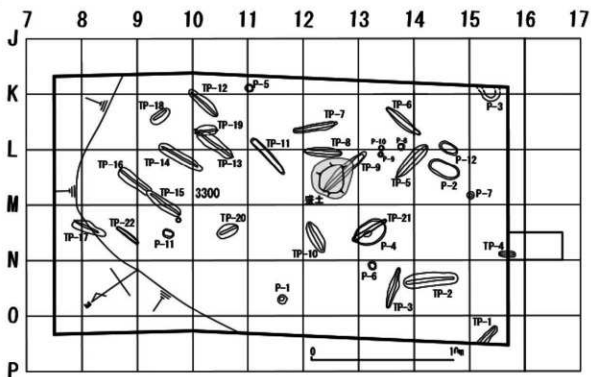
遺構と遺物

遺構は、縄文時代の土坑12基、Tピット22基、盛土1ヶ所が検出された。土坑には小型の竪穴状のもの1基と墓の可能性のある物2基が含まれる。盛土は複数のTピットの堀上土と考えられる。各遺構の詳細い時期は不明である。遺物は遺物16箱（36-II B コンテナ）が出土した。主要な時期は縄文時代中期後半～後期前葉と考えられる。この他、鹿や大型哺乳類の動物遺存体も見つかった。



国土地理院電子地図 50000 (平成29年6月調整) を使用

伊達市 西関内3遺跡の位置



遺構位置図



完掘状況

まご ない ころん
木古内町 幸連遺跡 (B-05-18)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査 (幸連5遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字幸連174-1、2、3、10、12、13

調査面積：2,896㎡

調査期間：平成29年5月8日～10月27日

調査員：鎌田 望、愛場和人、袖岡淳子、佐藤 剛、熊谷仁志

調査の概要

遺跡は道南いさりび鉄道札笥駅の北東約1.5kmに位置し、丘陵地形からの無名沢に開析された海岸段丘上の標高24～27mに立地する。沢を挟み西側には幸連5遺跡、東の沢の対岸には平成26、27年に調査を実施した幸連4遺跡がある。調査範囲は函館江差自動車道の本線部分と補償道路があり、本年は本線部分2,896㎡の調査を行った。補償道路は次年度以降の調査となる。

基本層序はⅠ層：表土（耕作土）、Ⅱ層：黒褐色土、住居跡の深い落ち込みには駒ヶ岳dテフラ（Ko-d:1640年）、白頭山-苫小牧テフラ（B-Tm:10世紀）がみられる。Ⅲ層：黒褐色土、縄文時代の遺物包含層。縄文時代前期後半、円筒土器下層式の盛土遺構を挟み上がⅢa層、下をⅢb層とした。Ⅳ層：暗褐色～褐色土（漸移層）、Ⅴ層：明黄褐色ローム～凝灰岩質礫層。

遺構と遺物

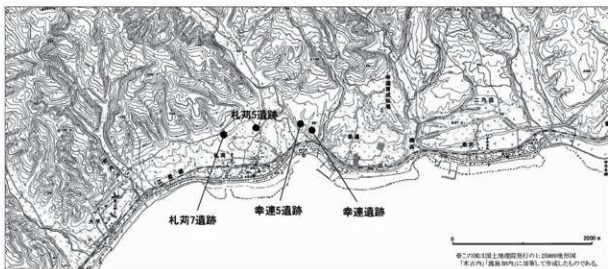
遺構は縄文時代中期後半と考えられる住居跡3軒、前期後半の円筒土器下層式期2軒、土坑97基、焼土19か所、フレイク・チップ集中1か所、小土坑170基、埋設土器6か所、盛土遺構2か所を抽出、盛土遺構からは焼土4か所、フレイク集中29か所、礫集中3か所、土器集中41か所を抽出した。

縄文時代中期後半と考えられる住居跡は平面が円～楕円形を呈し、床面に方形の石組炉が構築されている。3軒抽出のうち1軒は焼失家屋で、床面付近から多くの炭化材と焼土を抽出した。住居跡とその周辺から遺構の時期を示す遺物の出土は無いが、石組炉の形態などから縄文時代中期後半と推定する。今後の整理作業で炭化材の年代測定から年代を導き出せると考える。縄文時代前期後半、円筒土器下層式期の住居跡は平面が円形で床面に4本の柱穴と、中央にある地床炉の傍には柱穴状の砂ビット3か所を抽出した。

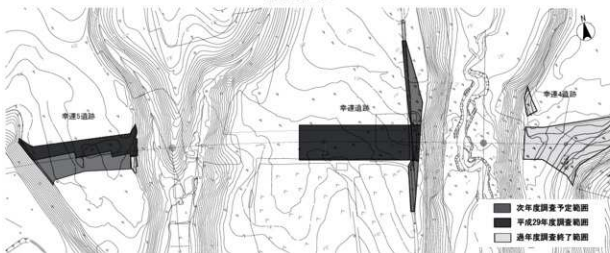
土坑は97基のうち9割ほどが縄文時代前期後半で土坑の断面形がフラスコ状を呈するものである。調査区はさきの2つの沢に挟まれた南西向きの緩斜面である。東側にはフラスコ状土坑集中域があり、重複しながら南北に連なる。フラスコ状土坑集中域には沢地形を介せず浅く窪んだ地形となっており、Ⅲ層相当の黒褐色土が削られてフラスコ状土坑が構築されていたとみられる。これらの土坑覆土には黒褐色土があまり含まれないローム質土主体のものが多く、埋戻しによるものと考えられる。フラスコ状土坑集中域から外れるフラスコ状土坑は覆土に黒褐色土が含まれ、暗色を呈する。フラスコ状土坑の覆土下位～坑底面にかけては主に円筒土器下層d1式期の土器・石器類、フレイク・チップの集中、礫が多く出土し、P-62からは漆製品も出土している。また坑底面には中央に深さ10cm前後の小土坑や小土坑から放射状に広がる幅・深さ共に10cm前後の溝を持つものがある。

盛土遺構は2か所で確認した。北壁の一部に土層断面でのみ確認した盛土Aと、調査区南西端の南に下る沢地形の沢頭形成されていた盛土Bがある。盛土Bの土はフラスコ状土坑集中域を削った土であると考えられ、最も厚いところで75cmを計る。盛土遺構からの出土遺物は円筒土器下層d1式期の土器・石器類で、なかでも石核類を含むフレイク・チップの集中を多く抽出した。

遺物は主に土坑や盛土遺構からの検出で円筒土器下層d1式期の土器・石器類が主体を占める。遺物は351,383点出土した。



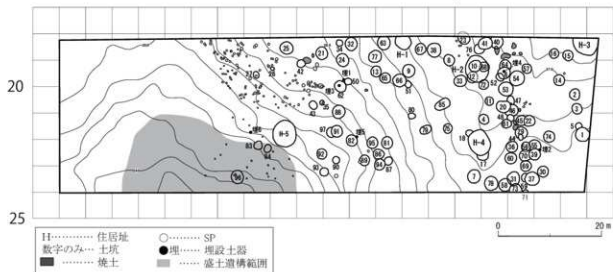
遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



A C E G I K M O Q S U W



遺構位置図



調査状況



H-4 完掘



H-5 完掘



フラスコ状土坑 調査状況



P-62 土層断面



P-53 土層断面



P-72 土層断面



P-62 完掘



P-66 完掘



盛土遺構 土層断面



盛土遺構 遺物出土状況

まごかい こうふく
木古内町 幸連5遺跡 (B-05-62)

事業名：高規格幹線道路兩館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財調査 (幸連5遺跡外)

委託者：国土交通省北海道開発局兩館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字幸連296-2、209-2、215-2、216-2

調査面積：2,687㎡のうち1,455㎡を着手

調査期間：平成29年5月11日～11月17日

調査員：土肥研晶、芝田直人、富永勝也、福井淳一、吉田裕史洋、酒井秀治

調査の概要

遺跡は、道南いさりび鉄道札笥駅の北東約1.2kmに位置し、海岸線から300mほど入った幸連川下流左岸、標高約20～22mの舌状の海岸段丘上に立地する。

平成28年度に東側斜面61㎡の調査を行い、縄文時代前期～中期の盛土遺構を検出し、谷底まで続いていたことがわかった。層厚が1.8mに達する堆積が確認されているところもみつかっている。遺物は、土器や石器類が63,564点出土した。縄文時代前期後半の円筒土器下層式～中期前半の円筒土器上層式が多量に出土し、石器では石鏃やスクレイパーなどの剥片石器、たたき石や扁平打製石器などの礫石器が出土している。

今年度は、東側斜面および段丘上の2,687㎡を対象に調査を実施したが、予想を上回る数の遺構・遺物が検出されたことにより、計画範囲のおよそ半分の面積を着手したところで終了した。

濃い密度で分布する遺構は、調査範囲の北側や南側にも同様に広がる事が確認できる。

遺構と遺物

今年度の調査で番号が付けられた遺構は、堅穴住居跡84軒、土坑108基、焼土21か所で、そのほかに盛土遺構を検出した。

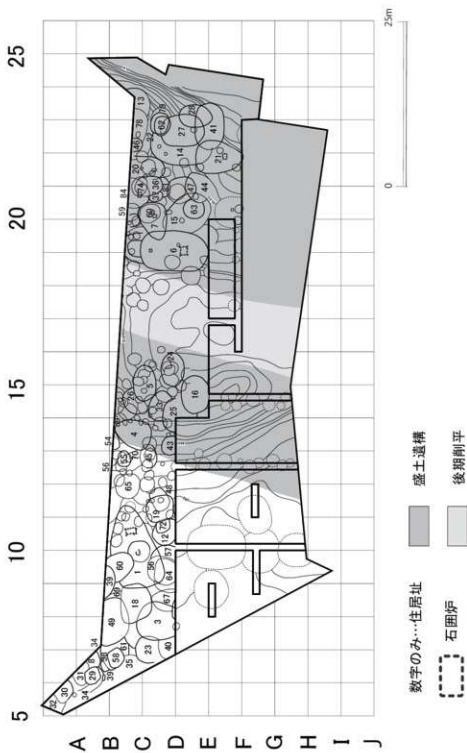
盛土遺構は、東側斜面で谷底まで続く縄文時代前期後半～中期の遺物が含まれるものと、段丘上で縄文時代中期後半～後期前葉の遺物が含まれ、海に向かって南北に延びる2列の盛土がある。2列の盛土遺構の間は削平されており、盛土遺構とその外側には堅穴住居跡や土坑が密に重なって分布している。盛土遺構からは多量の土器や石器類が層をなして出土し、つぶれた状態の土器、小礫の集石、剥片集中などを多く検出した。

堅穴住居址は、縄文時代中期前葉から後葉のものが幾重に重なって検出され、それより下から中期前半や前期後半の住居を確認している。中期後半の住居址の平面形は円形や卵形で、大きなものでは長さ10m以上のものもあり、石で長方形に囲った石囲い炉のある住居址も数軒見つかっている。

土坑は、フラスコ状ピットや多量の小礫の入った土坑などを検出している。フラスコ状ピットは深さ1.2mほど、底面径が2.5～3.0mの大型のものがみられる。

遺物は、78万3千点が出土した。土器は主に縄文時代前期後半(円筒土器下層式)、中期(円筒土器上層式、サイベ沢Ⅷ式、椀林式、大安在B式、ノダツⅡ式)、後期前葉(天祐寺式、涌元式)が出土している。石器は、石鏃・石錐・スクレイパーなどの剥片石器、たたき石・すり石・扁平打製石器などの礫石器が出土している。剥片石器はほとんどが頁岩を利用し、礫石器では安山岩・砂岩・泥岩・凝灰岩といった石材を多く利用している。このほかにミニチュア土器・有孔土製円板などの土製品、異形石器・石棒・青竜刀形石器などの石製品が出土しているが、中でも人物の顔が描かれた三角形の石製品は貴重な発見となった。

H29年度 幸連5遺跡



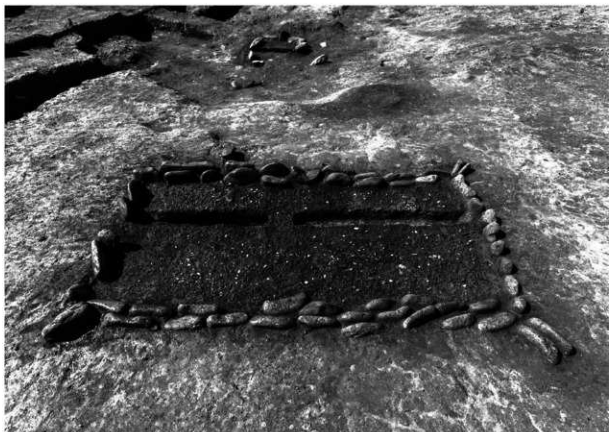
遺構位置図



盛土調査状況



調査区西側調査状況



H-1 HF-1



調査区東側調査状況

木古内町 札苜 5 遺跡 (B-05-48)

事業名：高規格幹線道路両館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（幸連 5 遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局両館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字札苜 566-2、779-2 地先

調査面積：770 m²

調査期間：平成 23 年 6 月 1 日～11 月 3 日

調査員：鎌田 望、愛場和人、袖岡淳子、佐藤 剛、熊谷仁志

調査の概要

遺跡は道南いさりび鉄道札苜駅の北約 1.1km に位置する。標高 15～20m の河岸段丘の最奥部に立地し、幸連川の支流の右岸に面する。今回の調査区は平成 23 年度調査区の東側に隣接する緩斜面である。また、平成 26 年度に調査を行った、南東側に隣接する札苜 8 遺跡では、ほぼ同時期の盛土遺構と竪穴住居跡、焼土跡などが検出されており、両遺跡は関連している可能性が高い。

基本土層はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：暗赤褐色土、Ⅳ層：暗褐色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色土である。遺物の主な包含層はⅣ層である。調査範囲内は、東側を除き、林道により広く削平されている。本遺跡では、Ⅲ層は不連続な堆積として確認した。風倒木痕では駒ヶ岳 d テフラ (Ko-d:1640 年) や白頭山-苫小牧テフラ (B-Tm:10 世紀) がみられるものがある。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡 3 軒 (H-10～12)、ピット 6 基 (P-1～6)、焼土跡 9 か所 (F-9～17)、フレイク集中 2 か所 (FC-4・5) と平成 23 年度に調査を行った竪穴住居跡 (H-2～5・7～9) の残存部分を検出した。これらはすべて縄文時代の遺構である。

竪穴住居跡はすべて縄文時代前期後半から中期初期の時期と考える。住居跡は 2 軒 (H-10・11) が大型のもので、1 軒 (H-12) が小型のものである。平面形は、H-10・11 の北東側は斜面の崩落と抜根跡により一部不明な部分があるが、円形ないし隅丸方形である。付属の施設は、H-11 では周溝と、東側の壁際を段状に掘り残した出入口施設を検出した。また、H-12 は壁際に沿ってベンチ状構造となる。炉跡は明確な地床が検出していないが、床面の中央が緩やかにくぼみ、炭化物が混じる砂が分布しており、今後に分析などの検討が必要である。住居跡の覆土中には遺物を伴う焼土跡がみられるものがある。

平成 23 年度調査の住居跡 (H-2～5・7～9) は調査区の中央に位置していた林道で削平され、一部の検出となったものが多い。今回と平成 23 年度調査で検出した住居跡の間には狭いながらも住居跡の空白域がある。二つの調査で検出した範囲の住居跡の密度を考慮するとその他にも住居跡が存在していた可能性は高く、本来は存在していた住居跡が林道で削平されたと考える。なお、柱穴なども検出なかったことから、削平された住居跡は小型で掘り込みの浅いものの可能性が高い。

ピットは今回の調査で初めて検出し、平面形は円形である。P-1 は覆土中位から石斧と被熱した粘土状の塊などが出土した。P-6 は壁の一部がオーバーハングする小型のものである。

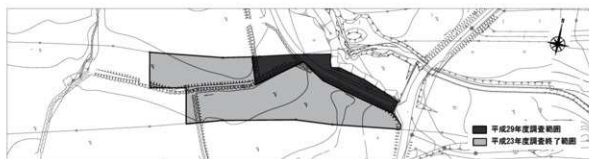
焼土跡・フレイク集中は縄文時代中期前半のものが多い。

遺物は遺構を中心に、土器 893 点、石器 2773 点、礫 975 点、合計約 4,641 点が出土した。遺物は水洗が終わった状態で、未注記・未分類のため、詳細は今後の整理による。

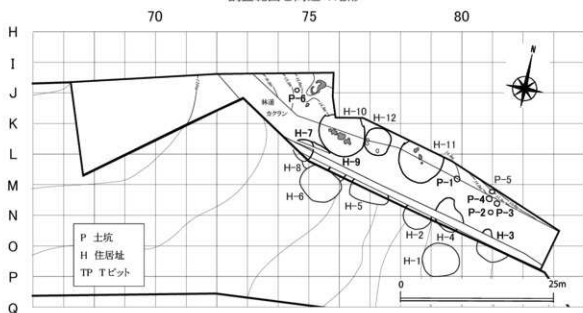
土器は縄文時代前期後半の円筒土器下層式土器と中期前半のものがある。

石器は縄文時代の剥片石器ではスクレイパーが多く、礫石器類ではたたき石・すり石・台石・石皿が比較的多くみられた。

旧石器時代では、平成 23 年度調査と同様に、竪穴住居跡 (H-11) の覆土中から、石刃が出土した。



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図



住居跡調査状況

木古内町 札苧7遺跡 (B-05-50)

事業名：高規格幹線道路両館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（幸連5遺跡外）

委託者：国土交通省北海道開発局両館開発建設部

所在地：上磯郡木古内町字札苧580-2

調査面積：893㎡

調査期間：平成29年5月8日～10月27日

調査員：鎌田 望、愛場和人、袖岡淳子、佐藤 剛、熊谷仁志

調査の概要

遺跡は道南いさりび鉄道札苧駅の北約400mに位置し、海岸に沿う低位の海岸段丘と後背の丘陵地形とのあいだに立地する。南西の海側約600mには亀ヶ岡文化葬地として知られる札苧遺跡がある。調査は平成25年度からの継続で第5次となる。過年度の調査で住居跡2軒、土坑202基、小土坑13基、焼土28か所、剥片集中6か所、礫集中1か所、埋設土器1か所、盛土遺構3か所、遺物集中4か所を検出した。遺物は土器・石器合わせて64万点出土した。

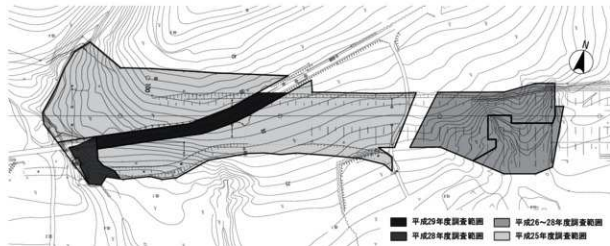
今年度の調査範囲は平成25年度の調査区を南北に分断する林道の下と、平成28年に調査を行った遺跡の西端に隣接する893㎡の調査である。調査範囲西側は丘陵から流下する沢により開析された氾濫原で、それより東側は南～南西に面した標高26～31mの緩斜面である。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗赤褐色土、Ⅳ層：黒褐色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色ローム～凝灰岩礫層である。平成25年に確認していた堅穴住居跡の落ち込みで、Ⅱ層中に胸ヶ岳dテフラ (ko-d:1640年)、Ⅲ層上面から白頭山-苫小牧テフラ (B-Tm:10世紀)を確認した。調査区内は林道工事により削平や抜根による攪乱を受けており、南西側の一部を除きⅥ層上面からの調査を行った。

遺構と遺物

前回調査で確認されていた住居跡1軒、土坑1基のほか、新たに縄文時代後期後葉の住居跡1軒、土坑2基を検出した。住居跡は出入り口構造に相当するところが林道建設時の抜根により攪乱を受けている。床面からは台付き鉢1個体分と剥片や石器類が出土した。土坑は時期を特定できる遺物の出土はないが、自然堆積の覆土中に縄文時代後期前葉の土器が1個体分検出したこと、平成25年度調査で周辺から縄文時代後期初頭の遺物が検出されていたことなどから、縄文時代後期初頭頃の土坑と思われる。

遺物は遺構と包含層から縄文時代後期前葉～後期後葉の土器・石器合わせて約3,000点出土した。



調査範囲と周辺の地形

斜里町 カモイベツ遺跡（I-08-30）

事業名：一般国道334号斜里町峰浜中央帯設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

所在地：斜里郡斜里町字峰浜国道敷地内

調査面積：1,695㎡（測量調査対象地域）

調査期間：平成29年11月4日～11月13日

調査員：長沼 孝、鈴木 信

遺跡の概要

遺跡は、JR知床斜里駅のやや北東10km、南西から北東に延びる海岸砂丘上に立地している。調査区域は海岸線に沿った砂丘の南側、旧河川ないし潟湖に面した標高5～6m部分で、現在の知床半島のウトロ方面に向かう国道334号の北側である。

本遺跡は、国道334号の整備に伴い、平成20・21・23・24年に斜里町教育委員会によって4回の発掘調査が実施されている。今年度は来年度の発掘調査に向けた予備的な測量調査で、調査予定区域の草刈りとドローンを活用した空中写真撮影及び写真測量を行った。調査区域は、現国道の北側、幅約4m、延長400mの範囲である。草刈りを行った結果、峰浜市街地側の東部では、砂採取などの後世の攪乱とみられる大規模な窪地が連続してみられた。しかし、調査区域中央部には、堅穴住居跡の可能性が強い、多角形とみられる深さ80cmほどの凹みが1か所確認できた。

遺構と遺物

斜里町教育委員会が実施した4回の発掘調査の期間、面積は下記のとおりである。

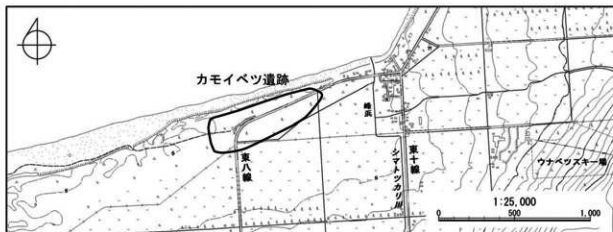
調査期間：【第1次】平成20年7月1日～10月31日、【第2次】平成21年8月1日～9月30日、

【第3次】平成23年9月1日～11月5日、【第4次】平成24年6月1日～8月31日

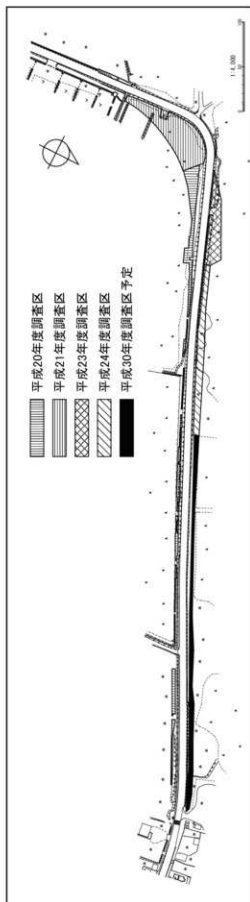
調査面積：【第1次】2,200㎡、【第2次】2,560㎡、【第3次】1,170㎡、

【第4次】1,352㎡、【合計】7,282㎡

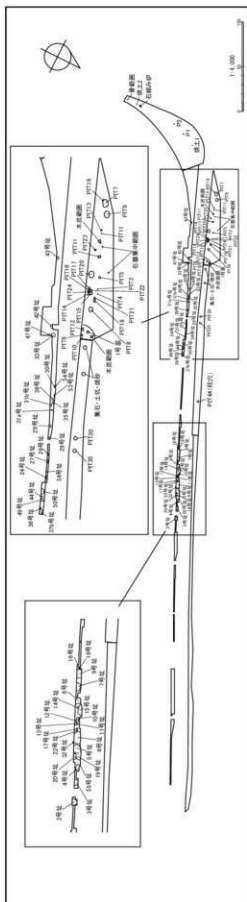
4回の調査では、縄文時代中～後期、統縄文時代、オホーツク文化期、アイヌ文化期の遺構・遺物が確認されている。確認された遺構の中では、オホーツク文化期（刻文式）の住居跡や統縄文時代（後北式）のガラス小玉が伴った土坑墓が目され、他には集石遺構、大小の土坑、石組炉、焼土、ベンガラの中成などがある。



遺跡の位置図



年度別の発掘調査区域図



過去4回の発掘調査の遺構分布図



遺跡の立地する海岸砂丘全景



遺跡の立地する海岸砂丘（中央やや上は峰浜集落）



調査区東部



調査区支部



草刈り後の調査区東部



草刈り後の調査区中央部の凹み



ドローンの操作機材など



撮影に使用したドローン



ドローンによる撮影状況



調査区中央部

根室市 温根沼2遺跡 (N-01-307)

事業名：一般国道44号根室市温根沼改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局釧路開発建設部

所在地：根室市温根沼271番2外

調査面積：4,040㎡

調査期間：平成29年5月11日～10月27日

調査員：笠原 興・影浦 覚・阿部明義・広田良成

調査の概要

温根沼2遺跡は、根室半島の付け根に位置する温根沼の東側、標高4～18mの段丘部に位置する。調査範囲の地形は、北側半分が台地の平坦部、東側が緩斜面（傾斜角 5° ～ 8° ）、南側と西側が勾配の急な斜面（傾斜角 20° ～ 30° ）となっており、南西端の一角に低位の平坦面がかかっている。

基本土層は、上から順にⅠ層：表土層、Ⅱ層：黒褐色土層、Ⅲ層：黒色土層、Ⅳ層：摩周f～jテフラ層、Ⅴ層：黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土層で、主な遺物包含層はⅢ層（縄文時代前期～擦文文化期）と、Ⅴ層（縄文時代早期後半）である。調査範囲内の数か所では、過去に発生した大きな地震の痕跡である噴砂が確認されている。うち1か所は最大幅4cmの砂脈がⅣ～Ⅶ層を垂直に貫き、Ⅲ層中で横に広がってレンズ状の堆積を呈するものであった。

遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡18軒、土坑47基、集石12か所、焼土18か所、フレイク集中1か所等が検出された。主な時期は、縄文時代早期後半（東釧路Ⅱ式）、縄文時代中期後半から後期前葉（北筒式）、続縄文時代（下田ノ沢Ⅱ式）、擦文文化期後期と、トピニタイ文化期である。他に近代の炭窯跡が検出されている。

各遺構は、おおむね時期ごとに分布傾向がある。縄文時代早期（東釧路Ⅱ式期）の遺構は、西側の台地上（特に縁辺部）から緩斜面部にかけてと、調査区南西端にかかる低位平坦部において分布している。北筒式期の遺構は西側の台地上縁辺部、続縄文時代の下田ノ沢Ⅱ式期の遺構は調査範囲中央付近の台地上から斜面上位にかけて分布する。更に擦文文化期とトピニタイ文化期の遺構は台地上の平坦部に分布する。なお、グリッドf・g-10～12周辺に関しては、ⅢH-9・14・15の重複を中心に、断続的に同じ場所が利用されており、時期の異なる複数の遺構が重なり合っている。

縄文時代早期後半の遺構は住居跡3軒（ⅤH-1～3）、土坑19基（ⅤP-1～19）、集石1か所、焼土3か所（ⅤF-1～3）が確認された。ⅤH-2は床面から東釧路Ⅱ式土器が出土した。土坑においても覆土内から東釧路Ⅱ式土器が出土したもの（ⅤP-1・2・8・9・15・16・19）は多い。ⅤP-8は、覆土中より、土器片がまとまって出土したほか、たたき石9点、有溝砥石、石鎌、スクレイパー、石核等が出土した。

縄文時代前期の遺構は、温根沼式期の住居跡が1軒（ⅢH-15）確認されている。

縄文時代中期後半から後期前葉にかけての北筒式期の遺構は、住居跡4軒（ⅢH-7・8・13・14）、土坑7基（ⅢP-13・15・17・22・23・25・27）、集石7か所（ⅢS-1～5・9・11）、焼土1か所（ⅢF-14）が確認された。ⅢH-7は、壁際に袋状の付属土坑が3基検出された特徴的な住居跡である。

続縄文時代の下田ノ沢Ⅱ式期の遺構は住居跡が5件（ⅢH-1・6・10・11・12）、土坑15基（ⅢP-1～8・10～12・14・16・20・24）、焼土8か所（ⅢF-1～3・5～8・12）が確認された。ⅢH-1は焼失家屋で、一部、垂木材と母屋根材が井桁状の組みを保ったまま出土した。ⅢH-1と12は板状礎を平行に差し立てた構造の炬を持つ。ⅢH-6・11・12は、南西部が一段下がった床面を持つ。いずれも擾乱に

よる削平で判然としませんが、南西部が浅く舌状に張り出していた可能性がある。ⅢH-6では他に、北西壁と北東壁が外に張り出している。また、ⅢH-6に関しては、炉の上位の覆土中において、無文の土器（下田ノ沢式）が倒立状態で出土。さらに炉の西側に近接した床面からは、小型土器がほぼ完形で出土した。この小型土器は相対する貫通孔をもった小突起を2つ有するが、うち1つが貫通孔のところで欠損する。その小突起の破損部を中心にして同心円状に光沢の強い炭の付着が観察された。ⅢH-11は、床面に付属土坑があり、坑口中央において焼土が確認された。土坑を埋めて、その上を炉にしたとみられる。下田ノ沢Ⅱ式期の土坑には、覆土内に籾や炭化材を伴うものが一定数ある（ⅢP-1・4・6・7・12・16）。うちⅢP-4・12・16は坑底に段差がある。他に墓の可能性のある土坑もある（ⅢP-2・11・14）。中でもⅢP-14は、長軸を東西方向に持つ楕円形で、西側の坑底部から、石鎌、石槍またはナイフ、スクレイパー等黒曜石製石器と、緑色泥岩製の小型石斧がまとまった状態で出土した。そのすぐ横からは、歯の可能性のある微細破片も検出されている。

擦文文化期の遺構は、住居跡2軒（ⅢH-2・3）、集石1か所（ⅢS-7）が確認された。いずれも後半期のものとみられる。ⅢH-2は、床面中央に地床炉があり、カマドと4本の主柱穴と壁際を巡る小柱穴が確認されている。ⅢH-3は大部分が調査区外であるが、南東部の壁にカマドが2か所確認された。柱穴は大型と小型に大別され、カマドのそばからは擦文土器1個体が出土している。

トビニタイ文化期の遺構は、住居跡2軒（ⅢH-5・9）が確認された。ⅢH-5は、覆土中において小～大型の礫が多数出土しており、床面では集石とトビニタイ式土器1個体がつぶれた状態で出土した。柱穴は壁際に多く、南壁には斜位の杭状穴のピットが連なって検出された。ⅢH-9は掘り込みが浅い。覆土中において複数の焼土および炭化材が検出された。覆土の上部においては、楕円～垂角礫の集石が4か所確認されている。

このほか擦文文化、トビニタイ文化双方の可能性のある住居跡が1軒（ⅢH-4）ある。床面西側に南北方向に長軸を持つ楕円形の付属土坑があり、大型礫が出土した。住居覆土内からも全体的に大型の礫を含む多量の礫が出土している。床面中央付近に炉はあるがカマドは確認されておらず、床面直上からは小規模な集石が検出されている。

根室半島で、下田ノ沢式およびトビニタイ式期の遺構の調査例は少ないため、当該期の良好な資料といえる。

土器は主に、縄文時代早期後半の東鋼路Ⅱ式、中期後半から後期前葉の北筒式、統縄文時代中頃の下田ノ沢式、擦文土器、トビニタイ式等が出土している。北筒式は古手のⅡ式（トコロ6類）から北筒Ⅴ式までがある。下田ノ沢式はⅡ式が主体。擦文土器は山形及び綾杉状沈線の組み合わせによって文様帯が構成された後半期の資料が主体。トビニタイ式土器は紐状貼付文を施したⅡ式である。これらのうち、もっとも出土点数が多いものは下田ノ沢式で、北筒式がそれに次ぐ。擦文土器とトビニタイ式土器は大半が住居跡からの出土である。

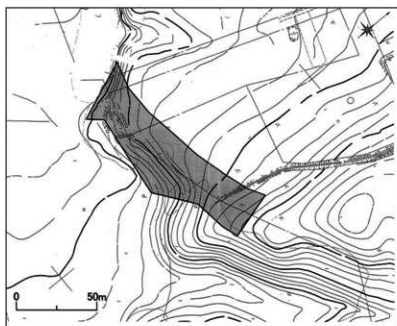
剥片石器はスクレイパーが多い。中でも円形に刃部を巡らせた、いわゆる拇指状のものが大半を占めており、石鎌や石槍またはナイフがそれに次ぐ。一方、石鎌、つまみ付きナイフはあまり出土していない。剥片石器の石材はほとんどが黒曜石製で、道南で多く出土するような珪質頁岩製の石核や原石片は、ごく少数である。

石斧は相対的に少ない。砂岩ないし泥岩製のものが多く、道央圏などで顕著な緑色泥岩製の石斧も少量出土している。また、縄文時代早期のものと考えられる蛇紋岩製の斧も数点であるが出土している。これらに関しては遠隔地からもたらされた可能性が考えられる。

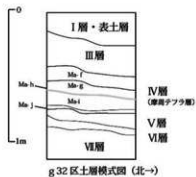
礫石器では、砂岩製の砥石が多く出土している。特徴的な砥石として、有溝砥石と角柱状砥石の二者がある。砥石と並んで、たたき石も多く出土している。縁辺を両面から剥離させて鋭い刃部をもうけたチョッパー的なものが一定数みられる。礫石器の石材は、泥岩、砂岩、粗粒玄武岩等、根室周辺で採取されるものがほとんどである。なお、すり石、台石・石皿等は非常に少ない。

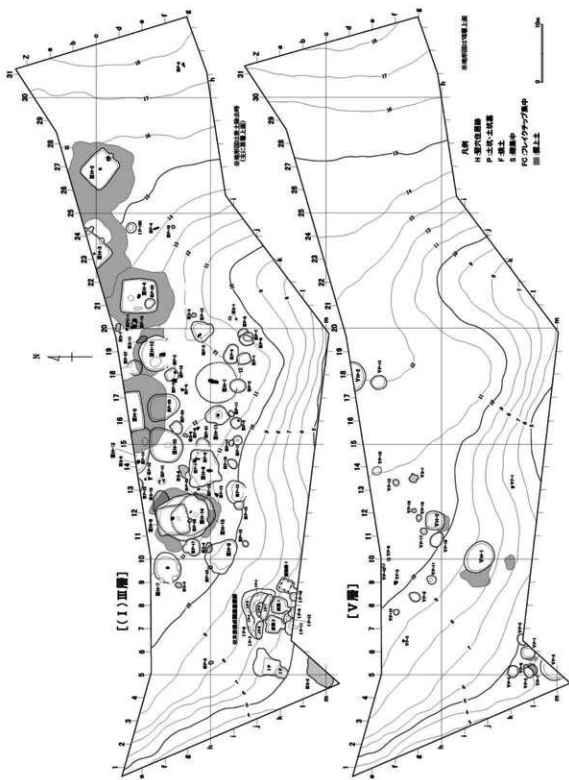


遺跡位置図 国土地理院発行の数値地図25,000分の1「東梅」「根室南部」(平成14年)を使用



調査区周辺の地形図

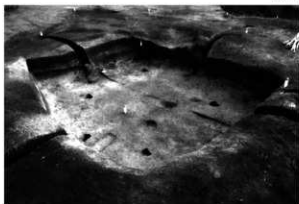




遺構位置図



調査区全景



竪穴住居跡 III H-2 (擦文文化期)



竪穴住居跡 III H-4



竪穴住居跡 III H-5 (トビニタイ式)



III H-5 遺物出土状況



竪穴住居跡 Ⅲ H-1 炭化材検出



Ⅲ H-1 完掘 (続縄文時代)



竪穴住居跡 Ⅲ H-12 (続縄文時代)



Ⅲ H-12 土器出土状況



竪穴住居跡 Ⅲ H-7 (縄文時代後期)



竪穴住居跡の重複 (Ⅲ H-9・14・15)



V H-3 (縄文時代早期)



Ⅲ H-6 出土土器

下川町 上名寄 8 遺跡 (F-21-70)

事業名：名寄川河道掘削工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：上川郡下川町上名寄11線河川敷

調査面積：700㎡

調査期間：平成29年9月14日～平成29年10月26日

調査員：笠原 興、鎌田 望、佐藤 剛

調査の概要

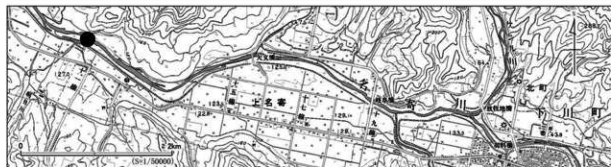
遺跡は、下川町の市街地から西へ約10km、名寄川中流域の河岸段丘に位置し、舌状に張り出した地形となっている。標高は約117m～123mで、名寄川との比高は約4m～12mである。遺跡の周辺は、これまでに行われた河川改修工事によって丘陵先端部が削られ、南側には堤防や用水路が作られ、更に旧名寄本線によって掘削もされている。

「名寄」の地名は、アイヌ語の「ナイ・オロ・プト」(川または沢の中・所・河口)に由来し、天塩川と名寄川が合流する場所を示している。名寄川流域や、その支流の丘陵または段丘上には多くの遺跡が所在し、下川町では本遺跡を含め70か所の遺跡が記載されている。名寄川の下流域に位置する名寄市でも148か所の遺跡があり、市内の流域では低地部にも遺跡が確認されている。本遺跡が立地する丘陵部周辺には、上名寄2遺跡や上名寄7遺跡、朝日1遺跡、朝日2遺跡、朝日3遺跡などがあり、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が分布している。

「上名寄8遺跡」は、平成27年度から3年にわたり調査を実施してきた。元々当該地は、「上名寄チャシ跡」として記載されていた地点であったが、平成25年度に下川町教育委員会が実施した遺構確認調査の際に、旧石器時代から縄文時代の遺跡である事が示されたために、「上名寄チャシ跡」とは分離して記載されることになった遺跡である。また、この調査の際には、近代の用水路跡が埋設されていることが明らかになり、その一部についても27年度に調査を実施した。

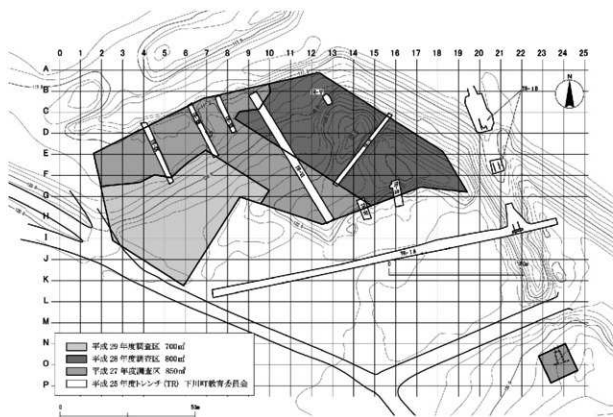
遺構と遺物

今年度で調査はすべて終了した。遺構は、27年度に低位の平坦部で確認した集石が1基と、用水路の取水口部にあたる「樋門」がある。出土した遺物はすべて石器等で、土器は出土していない。黒曜石を石材にした石鏃やスクレイパー、珪化岩製の石刃または石刃素材の石器、石核等である。石刃等は珪化岩を石材にしたものが多くを占め、わずかに珪質頁岩製のものもある。時期は旧石器時代から縄文時代早期が考えられる。珪化岩の起源は堆積岩で、出土した珪化岩には立体構造を保つ植物化石や、白色のメノウ質部分を含むものがあり、下川町原産の特徴を持っている。



遺跡の位置

国土地理院の数値地図50000(地図画像)「北海道-Ⅱ」
(平成17年発行)を使用



上名寄8遺跡全体図



調査状況

3 現地研修会の報告

今年度は、8月31日(木)森町、9月1日(金)木古内町・上ノ国町において、現地研修会を行った。

1日目、森町での研修は北海道埋蔵文化財センターの指定管理業務「市町村担当職員出前研修会」との合同開催である。今回の市町村担当職員出前研修会は、森町公民館を会場とし、「地域の埋蔵文化財」シリーズのうち、(公財)北海道埋蔵文化財センターの津軽海峡をのぞむ遺跡群の調査成果、近年の函館市における発掘調査の成果、ならびに東北芸術工科大学を中心とした「寒冷地における保存修復に関する研究」に関連した森町の取り組みについて各講師から報告があった。

最初の研修1は、当センター常務理事長沼孝による「北海道の歴史と道南(渡島・松山)の文化財」で、①道南(渡島・松山)の文化財等に関する数的概要、②天然記念物、③道南の歴史的文化財、④民俗文化財、⑤名勝、⑥建造物、⑦最近の話題の7項目について解説があった。

研修2は、津軽海峡をのぞむ北斗市や木古内町の発掘調査に従事した経験のある(公財)北海道埋蔵文化財センター立田理による「津軽海峡遺跡群の調査成果から」。①南北海道の間筒下層C式、②南北海道の「盛土遺構について」、③箱館戦争の銃弾の3点について、紹介があった。

研修3は、長年にわたり旧茅部町、函館市の発掘調査に従事している函館市教育委員会福田裕二氏による「近年の函館市内の調査成果から」。①市町村合併後の函館市の埋蔵文化財、②市町村合併後の函館市の指定文化財、③函館市縄文文化交流センターの整備、④史跡大船遺跡の整備、⑤史跡垣ノ島遺跡の整備、⑥北海道・北東北の縄文遺跡群の6点について、紹介があった。

研修4は、森町教育委員会高橋毅氏による「寒冷地における石材保存研究について」。①寒冷地における文化財の保存修復に関する研究、②石材保存に関する事例、③森町鷺ノ木遺跡の石材保存について、の3点について、紹介があった。東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターと地元当事者が協力して行っている研究事例が報告され、そこからみえてきた課題についても示された。

1日目の最後は、森町教育委員会高橋氏の解説で、森町発掘調査整理事務所での展示等の見学を行った。史跡鷺ノ木遺跡を含めた森町の遺跡、遺物について、理解を深めた。

2日目の財団職員研修では、幸連5遺跡、幸連遺跡、木古内町郷土資料館、上ノ国町勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅および附属土蔵を見学した。

午前は、当財団が調査中の幸連5遺跡、幸連遺跡、および木古内町郷土資料館を見学した。

幸連5遺跡では、土肥課長から盛土遺構の下から竅穴住居跡群や土坑群が多数検出され、それらが重複している状況と遺構認定の判断基準となった遺構平面、断面での差異について説明があった。

幸連遺跡では、鎌田課長から基盤層のローム層と同じ埋土で開口部を埋めたフラスコ状土坑群について説明を受けた。遺構検出の判断基準やオーバーハンクしている遺構形状にあった調査方法について、解説があった。

木古内町郷土資料館では、学芸員の木元豊氏から、郷土資料館の概要と考古資料展示室について説明を受けた。

昼食後、上ノ国町勝山館ガイダンス施設、旧笹浪家住宅を見学した。

上ノ国町勝山館ガイダンス施設では、学芸員の塚田直哉氏と飯浜幹広氏から史跡勝山館跡を含めた上ノ国町内の遺跡、史跡について説明を受けた。史跡勝山館跡内に整備された歴史の道を歩きながら、主な復元施設などの解説を受けた。旧笹浪家住宅では、建物内部のほか、考古関係資料として、町内市街地で出土したアイヌ文化期のイクバスイなどの木製品も実見することができた。

多忙な中、1日目の会場設定や講義・解説の対応をしていた福田・高橋・片山弘喜各氏、また、2日目の見学説明などを行っていただきました木元・塚田・飯浜各氏の皆様に深く感謝いたします。

以下、研修会の日程を示す。

8月31日（木）各自 会場まで JR・徒歩移動

森町公民館 講義

森町発掘調査整理事務所 見学

七飯町 情報交換会・宿泊

9月1日（金）バス移動

幸連5・幸連遺跡見学

木古内町郷土資料館見学

上ノ国町勝山館ガイダンス施設・旧笹浪家住宅見学

JR新札幌駅 解散



市町村担当職員出前研修会参加者（森町公民館前にて）



研修 1



研修 2



研修 3



研修 4



木古内町幸連 5 遺跡



木古内町郷土資料館



上ノ国町史跡勝山館跡ガイダンス施設



上ノ国町史跡勝山館跡歴史の道



木古内町幸連5遺跡



旧笹浪家住宅

4 協力活動及び研修（平成29年1月～12月）

(1) 協力活動

ア 発掘現場見学

- * 木古内町 幸連 5 遺跡
7月20日 木古内町文化財審議委員発掘調査現場見学(8名)
- * 根室市 温根沼2遺跡
8月19日 根室市制施行60年記念事業史跡見学会「根室市の遺跡を学ぶ」発掘調査現場見学(34名)
- * 伊達市 西関内3遺跡
9月9日 青少年教育事業「だてっ子遊び・学びの教室」遺跡発掘体験(22名)
- * 木古内町 幸連 5 遺跡
9月30日 南北海道考古学情報交換会発掘調査現場見学(23名)
- * 木古内町 幸連 5 遺跡
9月13日 知内町立知内小学校遺跡発掘調査現場見学(37名)
- * 木古内町 幸連 5 遺跡
10月4日 木古内町遺跡発掘調査現場見学(9名)
- * 木古内町 幸連 5 遺跡
10月25日 函館道路事務所「未来の土木技術者が公共事業の現場を学ぶ」遺跡発掘調査現場見学(45名)

イ 委員会等の会議

- * 文化庁
3月1日～3日 文化審議会文化財分科会第一専門調査会(東京都台東区 長沼)
- * 全国埋蔵文化財法人連絡協議会
6月15日・16日 平成29年度総会(神奈川県横浜市 越田・小杉)
9月21日 平成29年度第1回全国埋蔵文化財調査情報交換会(東京都多摩市 山田・和田)
10月19日・20日 平成29年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会北海道東北地区会議
(山形県山形市 山田・菅野)
- * 千歳市教育委員会
8月3日・4日 史跡キウス周堤墓群調査指導委員会(千歳市 長沼)
- * 文化庁
9月28日 国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会(第2回)(札幌市 田口)
- * 洞爺湖町教育委員会
11月8日・9日 国指定史跡入江・高砂貝塚保存整備委員会(洞爺湖町 長沼)

ウ 調査指導及び講演会等の講師

- * 明治大学
2月10日～12日
文部科学省科学研究費補助金による「気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究」
科研最終年度「市民向け報告会」出席・古代集落集成データ集成最終打ち合わせ
(岩手県気仙郡住田町・陸前高田市 佐藤)
- 2月10日～12日
文部科学省科学研究費補助金による「気仙地域の歴史・考古・民俗学的総合研究」
科研最終年度「市民向け報告会」出席・貝塚データ集成最終打ち合わせ
(岩手県気仙郡住田町・陸前高田市 福井)
- * 秋田県教育委員会

3月26日 平成28年度世界遺産—縄文ルネサンス—事業 世界遺産登録推進フォーラム講師
(秋田市 長沼)

*一般財団法人道南歴史文化振興財団

3月26日 企画展「足形・手形付土製品の世界」付帯事業トークセッション講師(函館市 皆川)

*北広島市教育委員会

エコミュージアム普及推進事業「まちを好きになる市民大学」

9月9日 「歴史遺産特講」(歴史遺産研究)講師(北広島市 藤井)

9月24日 「歴史遺産特講」(調査実習)講師(北広島市 藤井)

11月8日 「エコミュージアム資料論」(考古学資料論)講師(北広島市 藤井)

11月25日 「歴史遺産報告会」(北広島市 藤井)

*特定非営利活動法人ばとりあ岩内

6月17日 岩内町郷土館平成29年度第2回企画展「縄文時代の岩内」講演会講師(岩内町 藤井)

*公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団

10月21日 平成29年度函館市北方民族資料館講座「ミュージアム・トーク」講師(函館市 田口)

*木古内町教育委員会

10月18日 木古内町郷土学習講座講師(木古内町 富永)

*北海道考古学情報交換会

12月2・3日 北海道考古学情報交換会(函館市 芝田・酒井・福井)

エ 東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のための職員の出向(平成25年度から)

出 向 先 公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

出 向 期 間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

出 向 者 大泰司 統、直江康雄

(2)研修

ア 外部研修

*文化庁

8月30日～9月1日 平成29年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会

(神奈川県横浜市 小笠原・三浦(忠))

9月25日～9月29日 平成29年度文化財担当者専門研修「三次元計測課程」

(奈良県奈良市 山中)

12月14日～12月21日 平成29年度文化財担当者専門研修「報告書デジタル作成課程」

(奈良県奈良市 佐藤)

*全国埋蔵文化財法人連絡協議会

11月16日・17日 平成29年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

(愛知県名古屋市中村・今本)

*北海道教育委員会

2月24日 平成28年度アイヌ文化財専門職員等研修会

(札幌市 田口・鎌田・笠原・村田・柳瀬・袖岡・芝田・藤井・鈴木(宏)・佐藤・山中・立田)

イ 内部研修

*平成29年度現地研修会

8月31日～9月1日(函館市・木古内町・森町9名)

*平成29年度発掘調査報告会

12月13日(センター研修室)

5 平成29年度刊行報告書

- 第341集「厚真町 豊沢5遺跡・富里1遺跡・豊沢10遺跡・豊丘2遺跡」
国営土地改良事業勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第342集「根室市 温根沼3遺跡」
一般国道44号根室道路建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第343集「木古内町 幸連3遺跡」
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第344集「木古内町 釜谷10遺跡」
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第345集「厚真町 上幌内4遺跡・上幌内5遺跡」
厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第346集「厚真町 オニキシベ3遺跡」
厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第347集「下川町 上名寄8遺跡」
天塩川改修工事のうち名寄川河道掘削工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第348集「千歳市 トブシナイ2遺跡・イカベツ2遺跡」
道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第349集「千歳市 根志越5遺跡」
根志越地区遊水池工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第350集「木古内町 泉沢6遺跡」
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

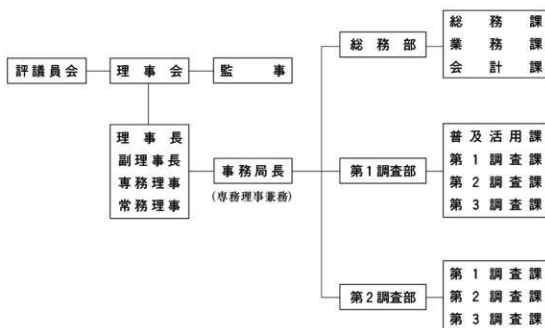
6 組織・機構

役員（平成29年6月23日現在）

理事長	越田賢一郎
副理事長	中田仁
専務理事	山田寿雄
常務理事	長沼孝孝
理事	白杵勲
理事	片岡晃
理事	菊池俊彦
理事	関口明子
理事	本田優子
理事	山田悟郎
理事	和田基興
監事	佐藤一夫
監事	坂本均

評議員（平成29年6月23日現在）

評議員	遠藤龍敏
評議員	川上淳
評議員	木村方一
評議員	昌子守彦
評議員	千葉英一
評議員	鶴丸俊明
評議員	西幸隆
評議員	古谷雅幸
評議員	卷河雄二
評議員	三原和廣
評議員	山田享
評議員	横山健彦



7 職 員 (平成29年4月1日現在)

事務局長 (兼務)

山 田 寿 雄

総 務 部

総 務 部 長 和 田 基 興
 総 務 課 長 小 杉 充
 主 任 葛 西 宏 昭
 参 与 前 田 博
 参 与 作 田 千 秋
 会 計 課 長 中 村 貴 志
 主 任 磯 田 千 秋

業 務 課 長 小笠原 学
 主 任 今 本 宏 信
 主 参 菅 野 賢 聡
 参 立 三 野 浦 忠 次
 与 与 与 善

第1調査部

第1調査部長 (兼務) 長 沼 孝
 普及活用課長 田 口 尚
 主 査 倉 橋 直 孝
 主 査 坂 本 尚 史
 主 査 柳 瀬 山 佳
 第1調査課長 中 山 昭 大
 主 査 菊 池 慈 人
 主 任 三 浦 正 人
 第2調査課長 土 肥 研 晶
 主 査 芝 田 直 人
 主 査 富 永 勝 也
 主 査 福 井 淳 一
 主 査 吉 田 裕 史
 主 査 酒 井 秀 治
 第3調査課長 皆 川 洋 一
 主 査 藤 井 浩
 主 査 鈴 木 宏 行
 主 査 大 泰 司 統
 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターへ
 出向 平成29年4月1日～平成30年3月31日
 主 査 直 江 康 雄
 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターへ
 出向 平成29年4月1日～平成30年3月31日

第2調査部

第2調査部長 鈴 木 信
 第1調査課長 鎌 田 望
 主 査 愛 場 和 人
 主 査 袖 岡 淳 子
 主 査 末 光 正 卓
 主 任 佐 藤 仁 剛
 主 任 熊 谷 志
 第2調査課長 笠 影 興
 主 査 阿 部 浦 覺
 主 査 阿 田 明 義
 主 査 村 田 良 成
 第3調査課長 村 田 大
 主 査 新 立 水 奈 理

調 査 年 報 30

平成29年度

平成30年3月15日発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印刷 社会福祉法人 北海道リハビリー
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116代・FAX 011-375-2115
